



ガーナ共和国 (Republic of Ghana)



- ガーナへの援助総額は2014年までに累計2,812億円で、サブサハラ・アフリカではケニアに次ぐ日本のODAの受益国。
- 累計1,288名(アフリカ諸国中5番目の多さ)の青年海外協力隊員が派遣された。
- 野口英世博士が客死した地。同博士に因み日本が支援して設立された野口記念医学研究所はアフリカ屈指の感染症研究所。
- マハマ大統領は、在ガーナ日本大使館の元現地職員。

国概要

(基礎データ)

- ・面積: 238,537平方キロメートル(日本の約3分の2)
- ・人口: 2,740万人(2015年, 世銀)
- ・首都: アクラ
- ・民族: アカン、ガ、エベ、ダゴンバ、マンプリシ他
- ・言語: 英語(公用語)、各民族語
- ・宗教: キリスト教(国民の約半数)、イスラム教(15%)、その他伝統的宗教
- ・政体: 立憲共和制
- ・議会: 一院制(定数275、任期4年)
- ・GNP: 378.64億ドル(2015年)
- ・GNI: 一人あたり 1,480ドル(2015年)
- ・経済成長率: 3.88%(2015年)
- ・失業率: 2.4%(2014年)

※特に注がない場合は外務省ホームページをもとに記載。

(略史)

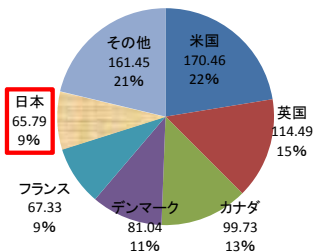
11世紀頃	北方からの移民が定住を始める
1471年	ポルトガル人がエルミナに上陸
1821年	英領ゴールド・コーストが設置される
1957年	英国から独立(エンクルマ初代首相)
1966年	クーデター(エンクルマ追放)
1969年	文民政権発足
1981年	ローリングス大尉によるクーデター
1993年	ローリングス大統領就任
2001年	クフォー大統領就任
2010年	ミルズ大統領就任(在任中に死去)
2013年	マハマ大統領就任

援助実績

スキーム	額(累計)／人数(延べ)
円借款	1,250.91億円 (2014年度末時点)
無償資金協力	1,021.85億円 (2014年度末時点)
技術協力	539.28億円 (2014年度末時点)
青年海外協力隊	延べ1,288人 (2016年7月時点で63人)

出典: ODA国別データブック2015
青年海外協力隊事務局統計(平成28年6月末)
(注) 青年海外協力隊には、短期派遣ボランティアを含む。

主要ドナーの対ガーナ経済協力実績 (2013年, 支出総額ベース, 出典: OECD/DAC) (単位: 百万ドル)



経済関係

スキーム	金額／人数(直近年)
日本からガーナへの輸出	127.06億円 (2015年, 財務省統計)
ガーナから日本への輸出	147.06億円 (2015年, 財務省統計)
在ガーナ日系企業数	22社 (2015年10月末時点, 外務省統計)

人的つながり

項目	人数(直近年)
ガーナにおける在留邦人数	339人 (2015年10月時点, 外務省統計)
在日ガーナ人数	2,129人 (2015年10月, 法務省統計) (アフリカ諸国の中ではナイジェリアに次いで多い)
ガーナから日本への留学生数	74名 (2015年, (独) JASSO調査)

日本とガーナ共和国との協力年表

年代	案件
1927年11月	野口英世博士が英領ゴールド・コースト(現・ガーナ)のアクラに到着
1929年5月	野口英世博士がアクラ市内の病院で黄熱病のため死去
1957年3月	6日、日本はガーナ独立と同時に同国を承認 12日には日本大使館を設置
1960年5月20日	ガーナが日本に大使館を設置
1962年9月	経済技術協力協定発効
1977年2月	青年協力隊派遣取極が発効し、ガーナへの青年海外協力隊派遣が開始される
1979年	日本の支援で野口記念医学研究所(通称「野口研」)が設立された
1983年	円借款「通信施設拡充事業」(約59億円)
1976年	研修員派遣事業を開始
1997年	無償資金協力「セコンディ漁港建設計画」(16.98億円)
1998年	無償資金協力「野口記念医学研究所改善計画(第1期)」(4.53億円), 「野口記念医学研究所改善計画(第2期)」(8.07億円)
2003-2004年	無償資金協力「幹線道路改修計画(第1期)」(27.76億円), 「幹線道路改修計画(第2期)」(7.63億円)
2004年12月15日	円借款債務(約1,046億7,819万円)を免除する取極に合意
2006年5月	小泉内閣総理大臣訪問
2008年	野口英世アフリカ賞創設
2009年7月	無償資金協力「国道8号線改修計画」(87.14億円)
2011年	BOPビジネス連携促進「離乳期栄養価食品事業準備調査(味の素株式会社)」
2012年5月	無償資金協力「アッパウエスト州地域保健施設整備計画」(9.89億円)
2012年7月	マハマ大統領就任, 同大統領は、在ガーナ日本大使館の元現地職員
2014年	無償資金協力「セコンディ水産振興計画」(18.25億円)
2015年6月	アクラ市内で発生した洪水被害に対する緊急援助物資支援
2016年5月	マハマ大統領訪日 「ガーナ投資フォーラム」を開催
2016年8月	日・ガーナ首脳会談(TICAD VI)

1968年から野口博士の故郷である福島県の県立医科大学がガーナの国立コレブ病院に行った医療協力の結果、日本政府の援助で「野口研」が設立。



©JICA/ガーナ



©(株)エコー・OAFIC(株)

ガーナ西部の中心的漁港整備。建設前後で陸揚げ量が14倍まで拡大。

P3レベル実験室の建設、会議室の整備等を実施。P3レベル実験室は、エボラ出血熱流行時に、ガーナ国内外の疑い例の検体検査の際にも活躍。

西アフリカ諸国を結ぶ国道1号線のうち98.2kmの区間を改修。1日平均交通量は実施前(2002年)の126～202%に向上。

2006年、小泉総理(当時)がガーナを訪問し、アクラ市内にある野口博士の肖像に献花した。



©内閣広報室

完成式典にマハマ大統領が出席

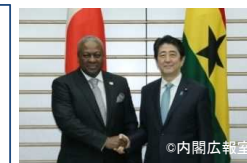


©JICA/ガーナ

69棟の地域保健施設(CHPS)を整備。

1997年に整備したセコンディ漁港の改修・拡張

円借款再開を表明。日・ガーナ共同声明を発表。野口研先端感染症研究センター建設を表明。



©内閣広報室